資料 2

オープンカフェ等地域主体の道活用に関する社会実験

【施策の概要】

既存の公共施設を、民間や地域の知恵で有効活用することは重要であり、なかでも、道路の利活用については、街に活気を与えるイベントやオープンカフェなどの取組みが各地で増加しつつあり、道路は多様な住民活動の場として高いポテンシャルを有すると考えられています。

「オープンカフェ等地域主体の道活用」は、地域の住民団体やＮＰＯ等が、地域のニーズや実情に応じて、道路空間をより柔軟に活用するなど、街の賑わい創出などの観点から、道を活用して継続的に行う地域活動（オープンカフェ、美化活動など）の円滑化を図る取組みです。

【代表事例】

神奈川県藤沢市（市街地活性化を目的としたオープンカフェの運営実験）

藤沢駅前のペデストリアンデッキにおいて、駅北西部商店街との回遊性向上、藤沢駅自由通路の歩行者混雑解消のため、来街者が休息し、行動範囲を分散させられるようにオープンカフェを設置し、その有効性や課題について検証を行う。また、併せて、観光・生活関連のインフォメーションセンターを設置し、周辺商店街等への誘導を図る。

路上工事縮減等に関する社会実験

【施策の概要】

国土交通省は、道路利用者からの不満の高い路上工事による渋滞を軽減するため、関係機関と協力しつつ、工事の集中化等の縮減対策を進めるとともに、道路利用者の代表から直接意見を伺う「ユーザーの視点に立った道路工事マネジメントの改善委員会」を設置し、平成 15 年 10 月に同委員会により提言をいただいたところです。

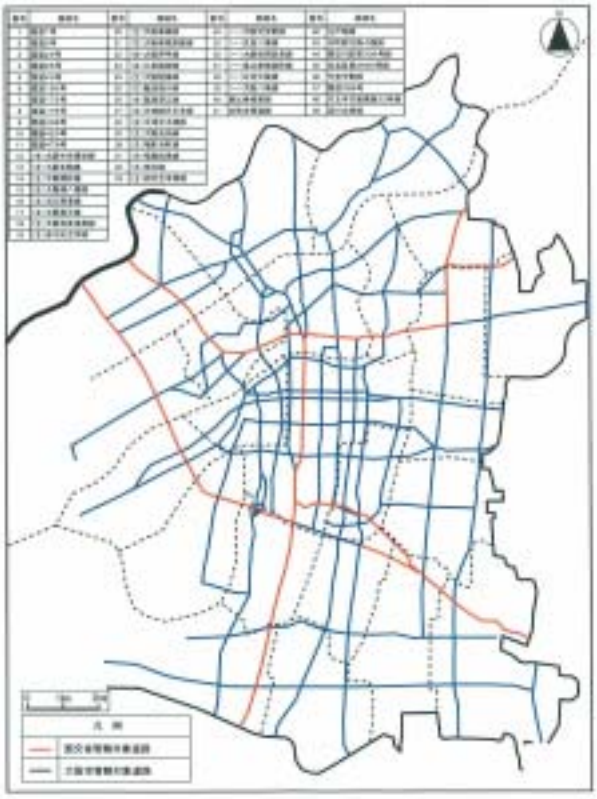
委員会の提言に示されているような利用者の視点にたった路上工事縮減施策（工事総時間を指標としたマネジメントや工事渋滞軽減度に応じた占用企業者へのインセンティブ等）を実践し、それぞれの効果や課題を把握する取組みです。

【代表事例】

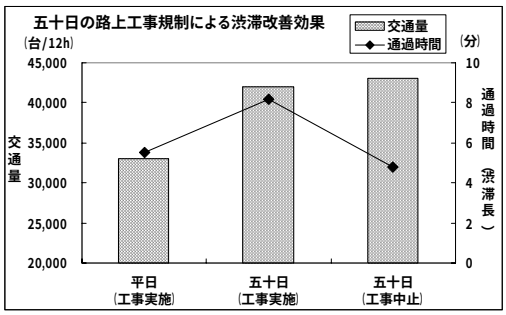
大阪府大阪市（五十日（ごとび）における車線規制を伴う工事の規制（中止）実験）

交通渋滞が増大する「五十日（取引先間の支払い日である、月のうち『五』、『十』がつく日）」の昼間に行われる路上工事を原則中止することにより、渋滞緩和の効果や有効性、課題等について検証する。

大阪市内の主要道路ネットワーク



五十日の路上工事規制による渋滞改善効果の調査結果の整理イメージ



大阪府における五十日の交通渋滞発生状況

- 五十日の交通渋滞時間は平日平均より多い
- 25 日相当日が最も多く、平日平均に比べて交通渋滞時間は約 4 割多い

（出典：平成 15 年度 大阪の交通白書）